

Weekly-Report

C X 週間展望（6月14日～）

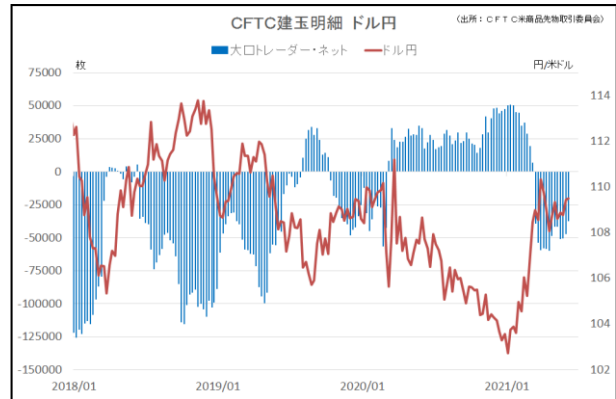
日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「欧州ではパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）による債券購入ペースの減速観測が広がっている一方、ラガルドECB総裁など、こうした量的緩和縮小について牽制する当局者の声がユーロドルの上値を抑えている。10日のECB理事会では政策金利や金融政策に変更はないとみられる。



5月の米消費者物価指数(CPI)が注目。前回4月分の米CPIは前年比+4.2%と予想(3.6%)を大きく超える高水準となり、米金利上昇、ドル買いとなった。事前予想は前年比+4.2%、コア前年比が+3.0%。原油上昇もあり、エネルギー上昇傾向が継続。EIA(米エネルギー情報局)による全米全種平均のガソリン価格は前月から4.3%の上昇で、全体を押し上げるとみられる。

FOMC(6/15-16)では、物価見通しの引き上げが期待されるほか、各メンバーによる年末時点での政策金利見通しで、現状18名中7名となっている2023年末までの利上げを見込むメンバーが増えるようならドル買いにつながる可能性も。雇用統計が予想ほど強くはなく、ドットチャートなどで大きな変更がなければ、引き続き、レンジ相場が継続としたが、5月の米雇用統計を受け、米連邦準備理事会(FRB)の現行の金融緩和が当面続くとの見方が広がり、円を含む主要通貨に対するドル売りの流れを引き継いで始まった。米消費者物価指数(CPI)や、欧州中央銀行(ECB)理事会を控え、ポジション調整目的の円売り・ドル買いが見られたが戻りは限定的。

5月のCPIは前年同月比5.0%上昇と4月から伸びが加速し、市場予想(4.7%上昇)も上回った。発表後に米長期金利が一時的に上昇したが、CPI上昇は中古車や航空運賃など、コロナ禍で低迷した旅行関連の急速な伸びだった事で、米連邦準備理事会(FRB)が量的緩和の縮小を急がないとの見方が強まり、米長期金利は1.43%と約3ヶ月ぶりの水準に低下し、円買い・ドル売りとなった。ただし、欧州中央銀行(ECB)理事会で、資産購入の規模と期限を維持。今後3ヶ月は「かなり速いペースで続ける」との表現も維持し、ユーロは対ドルで下落し、ドル円の下値を支えた。

1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

日産証券

C X 週間展望（6月14日～）

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

週末のドル円は、米長期金利が下げ止まったのを受け、日米の金利差縮小の観測がやや後退し円売り・ドル買いが優勢となった。米長期金利は一時1.42%と約3ヶ月ぶりの低水準を付けた。6月の消費者態度指数（速報値、ミシガン大学調べ）が市場予想を上回ったものの、15～16日開催のFOMCを見極めたい向きは多く、円売り・ドル買いを積極的に進める動きは限られた。

FOMCでは金融政策の据え置き決定が予想されるが、パウエルFRB議長が量的緩和の縮小を巡る議論開始についてどのような発言をするのかが注目されている。前日の欧州中央銀行（ECB）理事会を受けて、ユーロ圏の金融緩和の長期化観測が強まったことによるユーロ売りが続いた。

CFTC建玉明細（6/8 現在）は、37,314枚の売り越し。前週（47,115枚の売り越し）から縮小。

NYダウは小幅続伸。景気回復期待から消費関連株に買いが入り、指数を押し上げた。ただ、過去最高値圏にある中、米連邦公開市場委員会（FOMC）を控え、投資家の様子見姿勢も強く上値は重かった。

ナスダック総合株価指数は続伸。S&P500 種株価指数は、過去最高値更新。

【今週見通し・戦略】

15～16日の米連邦公開市場委員会（FOMC）が注目。今回は経済見通しや、FOMCメンバーの金利見通し（ドット・プロット）も公表される。政策金利は据え置き見通しながら、声明やパウエルFRB議長記者会見が注目される。米消費者物価指数（CPI）はインフレ警戒を高める内容だったものの、「インフレ上昇は一時的、雇用は依然脆弱で出口戦略の議論は時期尚早」と言うのが市場コンセンサス。注目はドット・プロット。2023年末までの利上げ開始予想の人数が増えることは予想される。

18日の日銀金融政策決定会合では、9月末が期限となっている新型コロナウイルス対策の資金繰り支援特別プログラムが延長されるとの見方も出ている。

イラン・米核協議合意などのサプライズがなければ、レンジ相場継続か。



Weekly-Report



C X 週間展望（6月14日～）

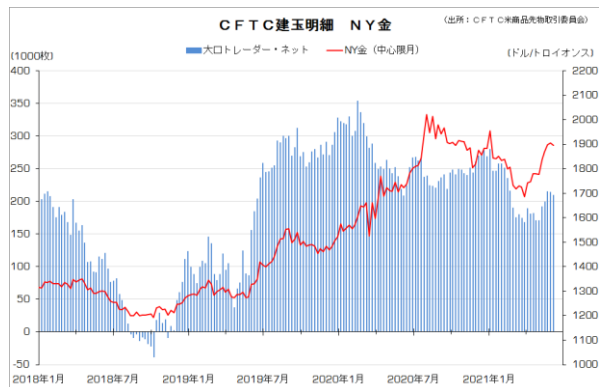
調査課 菊川 弘之

金標準先物(6/11 清算値:6,615円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで「週末のNY金は200日移動平均線に支えられて、下ヒゲ形成。先週の金の調整はユーロ安がきっかけであったが、欧州中央銀行（ECB）理事会メンバーのクノット・オランダ中銀総裁は、欧州を含め世界経済が新型コロナウイルス禍による落ち込みから予想以上に早く回復しているという見方を示しており、ユーロ圏経済の改善を受けてECB理事会でパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）による債券購入ペースの減速が発表されるか否かにも注目したい。今週から来週にかけて重要イベント（ECB理事会・G7首脳会議・NATO首脳会議・FOMC・米首脳会談・イラン大統領選挙）が相次いでおり、それぞれの結果如何では、大きく動意付くかもしれない」としたが、先週のNY金（8月限）は、欧州中央銀行（ECB）理事会や米消費者物価指数（CPI）を控え、心理的節目1900ドルを挟んだ保合いが続いていたが、米CPI発表後のドル高を受けて1871.8ドルまで下落後は、インフレは一時的との見方から米国債の利回りが低下し、ドル高が一服したことから押し目を買われた。時間外取引の高値を突破すると、テクニカル要因の買いが入って1902.7ドルまで上昇した。5月の米消費者物価指数（CPI）は前年同月比5.0%上昇と市場予想（4.7%上昇）を上回ったが、CPI上昇は中古車や航空運賃など、コロナ禍で低迷した旅行関連の急速な伸びが背景であった事で、米連邦準備理事会（FRB）が量的緩和の縮小を急がないとの見方が強まり、米長期金利は1.43%と約3ヶ月ぶりの水準に低下した。インフレ加速は一時的な要因が大きく、米連邦準備理事会（FRB）が量的緩和の縮小を急ぐほどではないと受け止められた。

ただ、ECB理事会で資産購入について今の規模と期限を維持。今後3ヶ月は「かなり速いペースで続ける」との表現も維持し、外国為替市場でドルがユーロに対して買われたことが金の上値を抑えた。



Weekly-Report

C X 週間展望 (6月14日～)

日産証券

調査課 菊川 弘之

金標準先物(6/11 清算値:6,615円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(8月限)は、反落。米連邦公開市場委員会(FOMC)を控えてドル高に振れたことが重しとなった。ワクチン接種進展によって米経済は持ち直しており、米国の雇用回復ペースは加速、一時的な要因も含めて物価上昇率も加速していることから、タカ派寄りの声明文や見通しが警戒されている。ただ、FOMC声明文やメンバー見通しがタカ派寄りとなる可能性が想定される一方、インフレ高進は一時的で現行の金融緩和が維持される見通しであることがドルの戻りを抑え、金鳴下値を支えている。量的緩和(QE)縮小協議の開始についてパウエルFRB議長が言及するとしても、性急に引き締め動くことはない想定されている。

CFTC建玉明細(6/8 現在)は、209,387枚の買い越し。前週(213,701枚の買い越し)から縮小。

【今週見通し・戦略】

15～16日のFOMCで量的緩和縮小(テーパリング)の議論が開始される可能性があるが、インフレは一時的との見方が強調されるという市場コンセンサスから大きなサプライズがなければ、上値の重い米長期金利面からは、金の下値は限定的。

一方、最近ユーロが崩れた時にNY金の下値も大きくなっており、ユーロドルの動きには注意したい。資金流出が続いていたビットコインも、上値は重いものの、下値も限定的。横ばいからの保合い放れ待ちとなっている。

上海金のプレミアムが6月に入り、ディスカウントに転じたことは金の上値を抑える要因。当局の商品高に対する相次ぐ規制・牽制もあり、高値警戒感から実需筋が買いを見送っている。



Weekly-Report



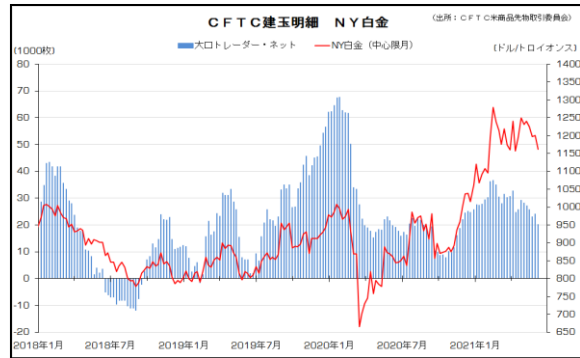
C X 週間展望（6月14日～）

調査課 菊川 弘之

白金先物(6/11 清算値:4,074円)

【前週レビュー】

先週レポートで「一目均衡表の雲のねじれでのトレンド変化に注目。心理的節目1100ドル～1280ドルの逆張りが続いているが、下限を割り込むと、週足ベースでは、ダブルトップが完成する」としたが、先週のNY白金（7月限）は、金高に追随する場面もあったが、米消費者物価指数（CPI）やECB理事会を前に、じり安の展開。20日間・50日間安値を割り込み、一目均衡表の雲のねじれで下げ加速。



米CPIは事前予想を上回ったものの、中古車や航空運賃など、コロナ禍で低迷した旅行関連の急速な伸びが背景であった事で、FRBが量的緩和の縮小を急がないとの見方が強まり、FRBが量的緩和の縮小を急ぐほどではないと受け止められた。ただ、ECB理事会で資産購入について今の規模と期限を維持。今後3ヶ月は「かなり速いペースで続ける」との表現も維持し、外国為替市場でドルがユーロに対して買われ、白金相場の上値を抑えた。

【週末のNY市場】

週末のNY白金（7月限）は、反発。米FOMCを控え、ドルが強含んだことが重しとなったが、FOMCではインフレ加速は一時的であると繰り返される可能性が高いことから、金融緩和継続期待から底堅かった。終盤も堅調に推移し、1150ドル台を維持して引けた。

CFTC建玉明細（6/8 現在）は、20,164枚の買い越し。前週（24,045枚の買い越し）から縮小。

【今週見通し・戦略】

NY白金（7月限）は、3月安値（1115.2ドル）～心理的節目1100ドル、東京は心理的節目4000円～3月安値（3826円）の攻防が焦点。

上海白金の出来高は増加し、逆張り下限では中国勢の安値拾いの買いが入っている。逆張り下限で下支えられれば、逆張り継続。下放れれば、一旦は下げ加速。

Weekly-Report

C X 週間展望 (6月14日~)

日産証券

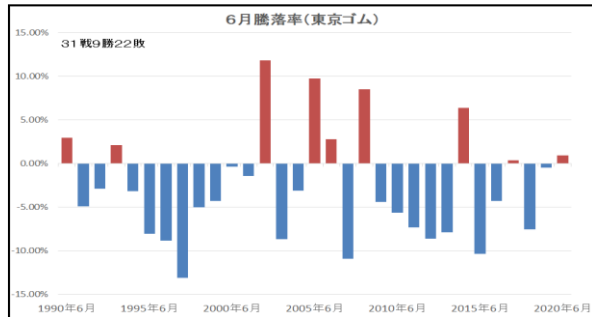
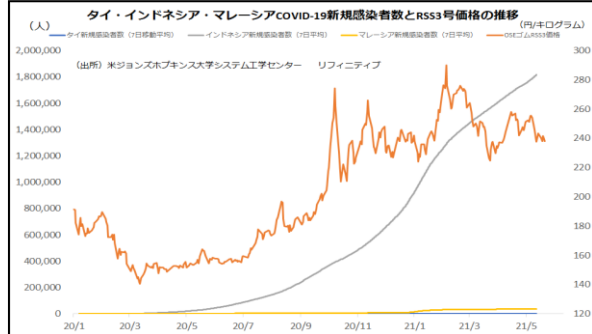
調査課 菊川 弘之

ゴムRSS3(6/11 清算値:238.0円)

【先週レビュー】

先週レポートで「産地ではウィンタリング明け近いが、コロナ拡大による労働者や原料の不足が懸念されている。今年はインドと同じように、春先から産地のコロナ感染が再拡大し、減産期以外の供給リスクも材料視されている。国内は当先逆鞘縮小一服。国内市場の割安は継続しているが、過去の月間騰落傾向では、タイの減産期終了に伴い6月は弱気優勢な時間帯。コロナ収束方向に動くと、戻りは売られやすい」としたが、先週のRSS3号は、上海安を背景に安値圏での保合い継続となった。

中国政府が、商品価格の抑制に動き出している中、中国INE市場のTSR期近限月が期限切れ懸念からSGX対比で下鞘圏まで売り込まれ、OSEゴムも追随した。



【全国生ゴム営業倉庫在庫】

5月31日現在11,501トン(前旬比427トン減)。

5月下旬の入出庫は入庫479トン、出庫906トン。

【今週見通し・戦略】

当先の逆鞘が拡大しており、上海下落に追随した先限も、産地対比での割安感もあり、逆鞘に売りなしも意識されやすい。ただし、6月の月間騰落率は圧倒的に売り優勢の時間帯で、産地のコロナに伴う供給障害が深刻化しなければ、戻りは売られやすい地合いか？心理的節目250円が上値抵抗。

Weekly-Report



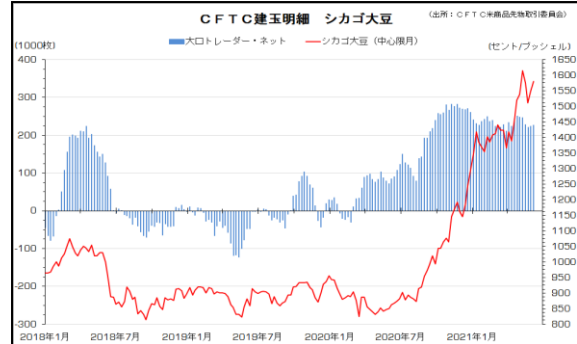
C X 週間展望（6月14日～）

調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(6/11 清算値:53,000 円)(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「シカゴは三尊の右肩を作る動きだが、天候相場の天王山と言われる独立記念日（7/4）～大豆の最終生産に大きな影響を与える8月にかけて、産地の天候次第で、上値リスクは残る」としたが、先週のシカゴ大豆（7月限）は、作柄報告で「良」以上の割合が事前予想の70%を下回る67%だったことが強気要因となった。20/21年度の米国内大豆需給は、期末在庫率3.2%が予想されるなど危機的状況にあるが、今回の作柄報告を受けて需給引き締め懸念が強まった。米産地では今後、高温乾燥が予想されていることも強気材料となった。7日には1623.50セントまで上値を伸ばしたが、米農務省需給報告で、圧砕用需要が引き下げられ、期末在庫量が引き上げられたことが弱気のサプライズとなり旧穀限月は売り優勢となった。ただ、新穀限月は、需給報告では期末在庫量が引き上げられたものの、米産地での高温乾燥懸念が強気材料視され、反発に転じた。



週末のシカゴ大豆（5月限）は、続落。土壌水分の乾燥が懸念されていた米中西部北部で降雨となったことで生育不良懸念が後退した。週末要因もあり、玉整理のための転売が出易い状況だったことが下げ幅を拡大。

CFTC建玉明細（6/8 現在）は、226,688枚の買い越し。前週（224,076枚の買い越し）から拡大。

【週間純輸出制約高（6月3日までの一週間）】

21万6000トン（事前予想レンジ：10万～130万トン）

【週間作物進捗報告（6月6日までの週）】

作付け：90%（前週84%、前年84%、平年79%）

発芽：76%（前週62%、前年65%、平年59%）

「良」以上：67%（前週 — 前年72%）

「劣」以下：6%（前週 — 前年6%）

Weekly-Report



C X 週間展望 (6月14日~)

調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(6/11 清算値:53,000 円)(2)

【米農務省需給報告】

単位: 百万B u

発表日	2021/22 年度		2020/21 年度	
	6/10	5/12	6/10	5/12
作付面積	87.6	87.6	83.1	83.1
収穫面積	86.7	86.7	82.3	82.3
単 収	50.8	50.8	50.2	50.2
期初在庫	135	120	525	525
生 産	4,405	4,405	4,135	4,135
輸 入	35	35	35	35
供給合計	4,575	4,560	4,695	4,695
圧 碎	2,225	2,225	2,175	2,190
輸 出	2,075	2,075	2,280	2,280
種 用	104	104	102	102
その他	15	15	4	4
需要合計	4,420	4,420	4,560	4,575
期末在庫	155	140	135	120
農家平均価格	1,385	1,385	1,125	1,125
在庫率	3.5	3.2	3.0	2.6

※) 作付面積=百万エーカー、収穫面積=百万エーカー、
単収=B u / エーカー、農家平均価格=セント、在庫率は%

【今週の見通し・戦略】

米農務省需給報告では、20/21年の米国内需給見通しにおいて圧碎量予測が1500万B u引き下げられたことが影響し、21/22年度の需給も緩和見通しが示されたが、期末在庫率は3.5%と危機的状況が見込まれていることに変わりはない。最終生産高に影響を与える8月の天候懸念が通過するまでは、下値は限定的な展開となりそう。シカゴは5月安値を割り込まない限り、長期上昇トレンドは崩れない。

8
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report



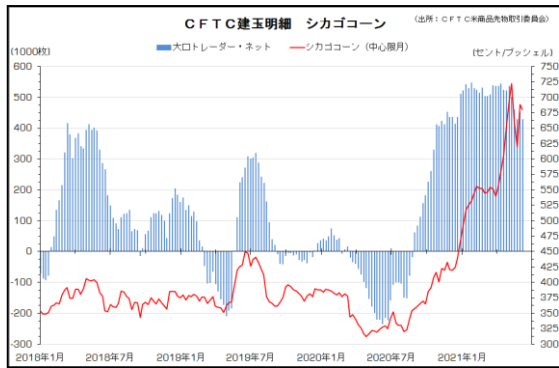
C X 週間展望 (6月14日～)

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(6/11 清算値:36,500円)(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「10日にUSDA需給報告。前月予測で新穀の期末在庫率は10.2%。旧穀は8.5%。新穀在庫率が10%以下に下方修正されるか否かに注目。作柄で「優」「良」合計が、豊作の目安と言われる70%超を維持するか否かにも注目」としたが、先週のシカゴは、作柄報告で「良」以上の割合が引き下げられ、予想を下回ったことが強気材料となった。さらに、米産地では高温乾燥が予想されていることでさらに作柄が悪化するとの懸念が広がったことも買いを促す要因となった。



米農務省需給報告で、エタノール生産用需要予測と輸出用需要予測の引き上げを受けて前回見通しよりも引き締まるとの見通しが示されたことが強気要因となった。同時にブラジルの20/21年度の生産量予測も引き下げられ、世界的な需給引き締まりの可能性が示されたことも買い支援要因となった。

週末のシカゴコーン(7月限)は反落。前日の上昇で米農務省需給報告を織り込み感が強まったうえ、米産地で降雨となったことで高温乾燥懸念が後退したことで売り優勢となった。また、週末を控えて玉整理ムードが強まっているところに、バイデン政権はバイオ燃料の最低使用義務量の緩和を検討している、と報じられたことで、エタノール需要の増加観測が浮上したことも弱材料となった。

CFTC建玉明細(6/8 現在)は、428,428枚の買い越し。前週(452,376枚の買い越し)から縮小。

【週間純輸出制約高(6月3日までの一週間)】

21万6000トン(事前予想レンジ:10万~130万トン)

【週間作物進捗報告(6月6日までの週)】

発芽率:90%(前週81%、前年87%、平年82%)

「良」以上:72%(前週76% 前年75%)

「劣」以下:5%(前週4% 前年4%)

Weekly-Report



C X 週間展望 (6月14日~)

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(6/11 清算値:36,500円)(2)

【米農務省需給報告】

単位: 百万B u

発表日	2021/22 年度		2020/21 年度	
	6/10	5/12	6/10	5/12
作付面積	91.1	91.1	90.8	90.8
収穫面積	83.5	83.5	82.5	82.5
単 収	179.5	179.5	172.0	172.0
期初在庫	1,107	1,257	1,919	1,919
生 産	14,990	14,990	14,182	14,182
輸 入	25	25	25	25
供給合計	16,122	16,272	16,127	16,127
飼料用	5,700	5,700	5,700	5,700
食品・種・工業用	6,615	6,615	6,470	6,395
内エタノール	5,200	5,200	5,050	4,975
国内消費計	12,315	12,315	12,170	12,095
輸 出	2,450	2,450	2,850	2,775
需要合計	14,765	14,765	15,020	14,870
期末在庫	1,357	1,507	1,107	1,257
農家平均価格	570	570	435	435
在庫率	9.2	10.2	7.4	8.5

※) 作付面積=百万エーカー、収穫面積=百万エーカー、
単収=B u / エーカー、農家平均価格=セント、在庫率は%

【今週の見通し・戦略】

期末在庫率は5月予想の10.2%から9.2%に下方修正となった。今後の米
国産コーンの生育状況の悪化があれば一段の下方修正も有り得る。5月高値~心
理的節目650¢の攻防戦。600¢を超えた時に空けたGAPが下値支持帯。
天候相場の天王山と呼ばれる独立記念日前後の天候が焦点となる。

10
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、
完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・
損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。
当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report



C X 週間展望 (6月14日～)

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「6月18日のイラン大統領選挙前に、米国の核合意復帰、イラン制裁解除となるか否かが焦点。～中略」。

アフターコロナでの需要回復と、イラン核合意に対する米国の復帰に伴うイラン産原油増産の綱引き相場としたが、先週のNY原油(7月限)は、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展もあり、欧米主要国経済が正常化に向かっている中、中国貿易統計で、5月の原油輸入量が前年比14.6%減の日量965万バレルとなったことを嫌気する場面もあったが、下値は限定的。

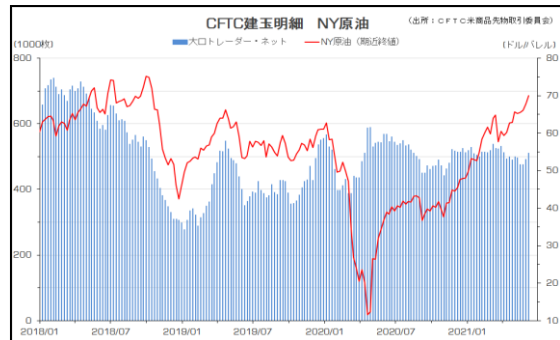
米エネルギー情報局(EIA)月報で、ニューヨーク原油、ブレント原油の今年の年間平均価格を前回より前者を5%、後者を4.7%上方修正した。また米国の4～9月のガソリンの予想平均小売価格をガロン当たり2.92ドルとして、前年同期の2.07ドルを大きく上回った事などを強材料視した。

米疾病対策センター(CDC)は8日、多くの国に対する渡航警戒レベルを引き下げ、人の移動が活発になるとの見方から、期近物として2018年10月以来の高値をつけた。

米エネルギー情報局(EIA)週報で、製油所稼働率が91.3%まで一段と上昇したことから原油在庫が減少した一方で、石油製品の在庫が増加したことが重しとなったものの、5月の米消費者物価指数(CPI)上昇は、インフレ加速が一時的な要因が大きく、米連邦準備理事会(FRB)が量的緩和の縮小を急ぐほどではないと受け止められ、相場を押し上げた。

米エネルギー情報局(EIA)週報で石油製品の需要は低調だった一方、石油輸出国機構(OPEC)の需要見通しは1～3月期は下方修正となったが、4～6月期以降は引き上げられた。

米国がイラン元当局者など3名や、2つの企業に対する制裁を解除したことでイランの原油制裁の解除が連想されたことから相場は一時急落したものの、今回の制裁解除はイラン核合意の修復協議とは関連がないと発表されている。



Weekly-Report



C X 週間展望（6月14日～）

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油（8月限）は、続伸した。国際エネルギー機関（IEA）月報を受け、世界の需要回復観測が強まった。IEA月報で世界の石油需要は「2022年末までにパンデミック前の水準に回復する」との見通しを示した。



石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなど非加盟国で構成する「OPECプラス」は「世界の石油市場に十分な供給が維持されるよう蛇口を開く必要がある」と指摘。経済活動の再開に伴い、世界の需要が堅調に回復するとの観測を高めた。

ワクチン接種によって欧州や米国などは新型コロナウイルスの流行を克服しつつあり、経済活動が正常化に向かっていることから、年後半にかけて石油需要の回復が本格化すると期待されている。北半球の夏季休暇シーズンは石油消費が拡大し、航空機による移動も回復する見通し。

OPECプラスは需要回復に合わせて増産する見通しだが、需給バランスは需要超過気味に推移するとみられている。イラン核合意の修復作業の結果、制裁を解除されたイランが増産するとしても、回復する需要が吸収する公算。18日のイラン大統領選では、反米保守強硬派のライシ司法府代表が優勢とみられている。

CFTC建玉明細（6/8 現在）は、510,499枚の買い越し。前週（491,297枚の買い越し）から拡大。

【石油掘削リグ稼働数（米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ）】

11日公表した統計によると、同日までの1週間の国内石油掘削リグ稼働数は前週比6基増の365基。今月では最大の増加幅となり、2020年4月以来の高水準となった。週間ベースでの増加は、過去7週で6回目。

天然ガス掘削リグの稼働数は、1基減の96基。5週続落は20年5月以降で初めて。

Weekly-Report



C X 週間展望 (6月14日~)

調査課 菊川 弘之

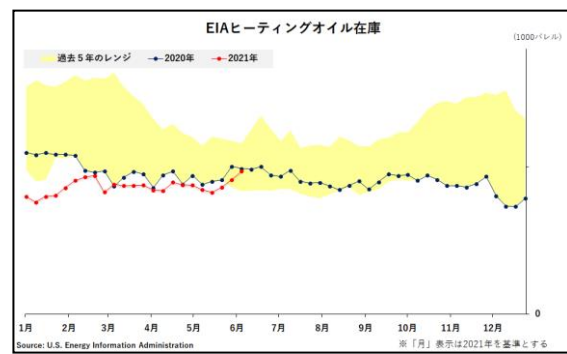
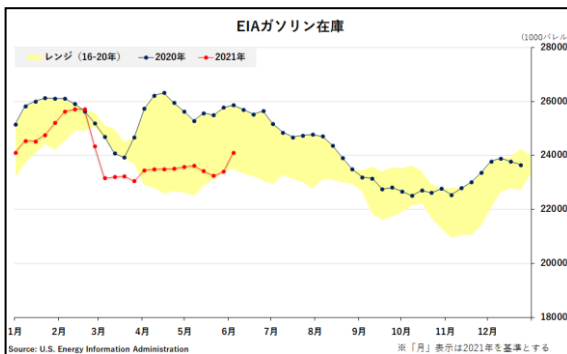
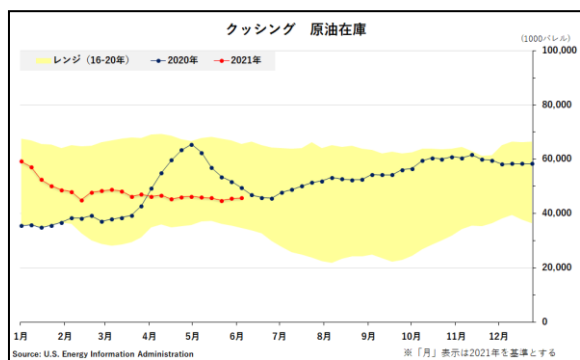
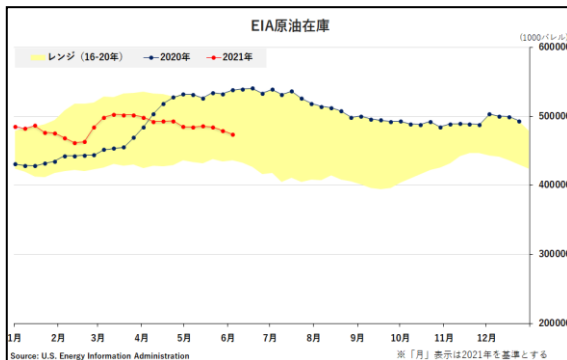
東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油 4億7403万バレル
 クッシング 4570万バレル
 ガソリン 2億4103万バレル
 留出油 1億3721万バレル

524万1000バレル減少
 16万5000バレル増加
 704万6000バレル増加
 441万2000バレル増加



【石油連盟週報】

石油連盟週報(5月30日~6月5日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比0.1%減の227万1486キロリットル。灯油在庫は、同0.5%増の157万0985キロリットル。週間原油処理量は0.7%減の240万2333キロリットル。推定出荷量は、ガソリンが38.2%増の82万2035キロリットル、灯油が88.4%増の13万4388キロリットル。

Weekly-Report



C X 週間展望（6月14日～）

調査課 菊川 弘之

東京原油(4)**【国際エネルギー機関（IEA）月報】**

IEA月報で、世界の石油需要は2022年末までに新型コロナウイルス感染拡大前の水準に戻る公算が大きく、「OPECプラス」による増産が必要となるとの見方を示した。先月、温室効果ガス排出削減のため、長期的には減産すべきだと主張していた。今回報告では「世界石油市場に十分な供給を続けるため、OPECプラスは増産継続の必要がある」と指摘。5月月報で、新規化石燃料事業への出資をやめるよう訴えているが、需要の高まりと各国の短期的方針は相反すると述べた。IEAは「21年7月～22年3月の目標値を上回るが、OPECプラスは22年、日量140万バレルの増産できる」とも説明した。

また、需要回復への対応について「問題が生じる可能性は低い」と述べ、OPECプラスの7月以降の生産余力は実質で日量690万バレルだと見通した。米経済制裁の解除に向け協議するイランの原油供給再開が見込まれる点にも触れた。

【見通し・戦略】

10日の一時的な急落は、米国が制裁していた企業2社と元イラン政府当局者3人に対する制裁を解除したと発表したことに敏感に反応したものの、イラン核合意に対する米国の復帰協議の行方次第では、上値も下値もどちらにもなり得る波乱要因。

米国としても18日のイラン大統領選前を交渉妥結したい思惑があると思われるが、3月に結んだイランと中国との25ヶ年の長期契約締結もあり、最高指導者ハメネイ師にとって、大統領選後にずれ込んでも、現職の穏健派ではなく、ハメネイ氏に近いとされる次期強硬派大統領が制裁解除による経済好転の恩恵を受ける。

イラン国営石油（NIOC）は「制裁が解除されれば、国内の原油生産の大半が1カ月以内に復旧する見通しだ」とし、（生産量を）日量400万バレル以上に増やしたいと発言しているが、合意に至っても、一気にイラン産原油の供給増加につながるかどうかは不透明で、中東の地政学如何では、上値リスクの高止まりが続く時間帯。

2015年の核合意の履行後、1日当たりのイラン平均生産量は日量338万バレルだったが、合意に至っても当初は100-150万バレル程度で収まり、アフターコロナでの需要増加と相殺されるのではないかとの見方も強い。

Weekly-Report



C X 週間展望 (6月14日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (6/14~6/18)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定
6月14日(月)	9:01	英国	6月	Rightmove 住宅価格 (前年比)
	13:30	日本	4月	鉱工業生産 確報値 (前年比) 季調値
	18:00	ユーロ圏	4月	鉱工業生産 (前月比)
6月15日(火)	0:00	米国	6月7日, 週次	週間穀物輸出検証高
	13:30	日本	4月	第3次産業活動指数 原数値
	18:00	ユーロ圏	4月	貿易収支 (EUR) 季調値
	19:00	ユーロ圏	5月	準備資産総額
	21:30	米国	6月	NY 州製造業況指数
	21:30	米国	5月	PPI Machinery Manuf'ing
	21:30	米国	5月	生産者物価指数 (PPI) 最終需要 (前年比)
	21:30	米国	5月	生産者物価指数 (PPI) 食品・エネルギー除く (前年比)
	21:30	米国	5月	小売売上高 (前月比)
	21:30	米国	5月	小売業販売高
	22:15	米国	5月	鉱工業生産 (前月比)
	22:15	米国	5月	設備稼働率 季調値
	23:00	米国	4月	企業在庫 (前月比)
	23:00	米国	4月	小売在庫 自動車除く 改定値
	23:00	米国	6月	NAHB 住宅市場指数
	納会	日本	---	東京一般大豆2021年6月限納会日
	納会	日本	---	トウモロコシ2021年7月限納会日
	未定	米国	---	連邦公開市場委員会 (FOMC、~16日)
6月16日(水)	2:00	米国	5月	NOFA-大豆クラッシュ
	2:00	米国	5月	大豆油在庫
	5:30	米国	6月7日, 週次	API週報
	8:50	日本	4月	機械受注 船舶・電力除く 民需 (前月比)
	8:50	日本	5月	輸出 (前年比)
	8:50	日本	5月	輸入 (前年比)
	8:50	日本	5月	貿易収支
	11:00	中国	5月	固定資産投資 (前年比)
	11:00	中国	5月	鉱工業生産 (前年比)
	11:00	中国	5月	小売売上高 (前年比)
	11:00	中国	5月	失業率 都市部
	21:30	米国	5月	建設許可件数
	21:30	米国	5月	住宅着工件数
6月17日(木)	21:30	米国	5月	輸入物価 (前月比)
	23:30	米国	6月7日, 週次	EIA週報
	3:00	米国	6月16日	FF 金利誘導目標
	3:00	米国	6月16日	連銀超過準備金利
	8:00	日本	6月	ロイター短観 非製造業指数
	8:50	日本	6月7日, 週次	対内中長期債投資
	8:50	日本	6月7日, 週次	対外株式投資
	15:00	ドイツ	5月	自動車登録台数 (前月比)
	15:00	英国	5月	自動車登録台数 (前月比)
	18:00	ユーロ圏	4月	建設業生産 (前月比)
	18:00	ユーロ圏	5月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 改定値 (前月比)
	18:00	ユーロ圏	5月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) (食品・エネルギー・酒・タバコ除) 改定値 (前月比)
	18:00	ユーロ圏	5月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) (タバコ除)
	21:30	米国	6月7日, 週次	週間穀物輸出成約高
	21:30	米国	6月7日, 週次	新規失業保険申請件数
6月18日(金)	21:30	米国	5月31日, 週次	継続失業保険受給総数
	21:30	米国	6月	フィラデルフィア連銀 業況指数
	23:30	米国	6月7日, 週次	EIA 週報
	4:30	米国	前週分	CFTC連玉明細
	8:30	日本	5月	全国消費者物価指数 (CPI) 総合
	8:30	日本	5月	全国コア消費者物価指数 (CPI)
	15:00	ドイツ	5月	生産者物価指数 (PPI) (前月比)
	15:00	英国	5月	小売売上高 (前月比)
6月18日(金)	15:00	英国	5月	小売売上高 除燃料 (前月比)
		日本	6月18日	日銀政策金利決定

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

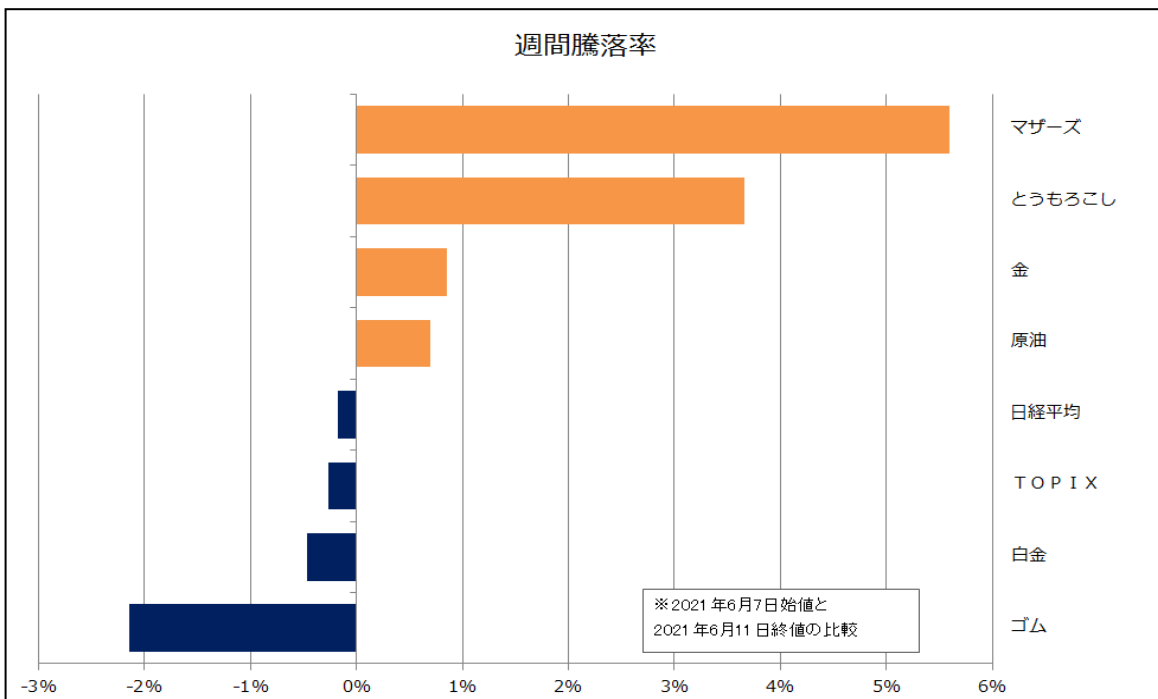
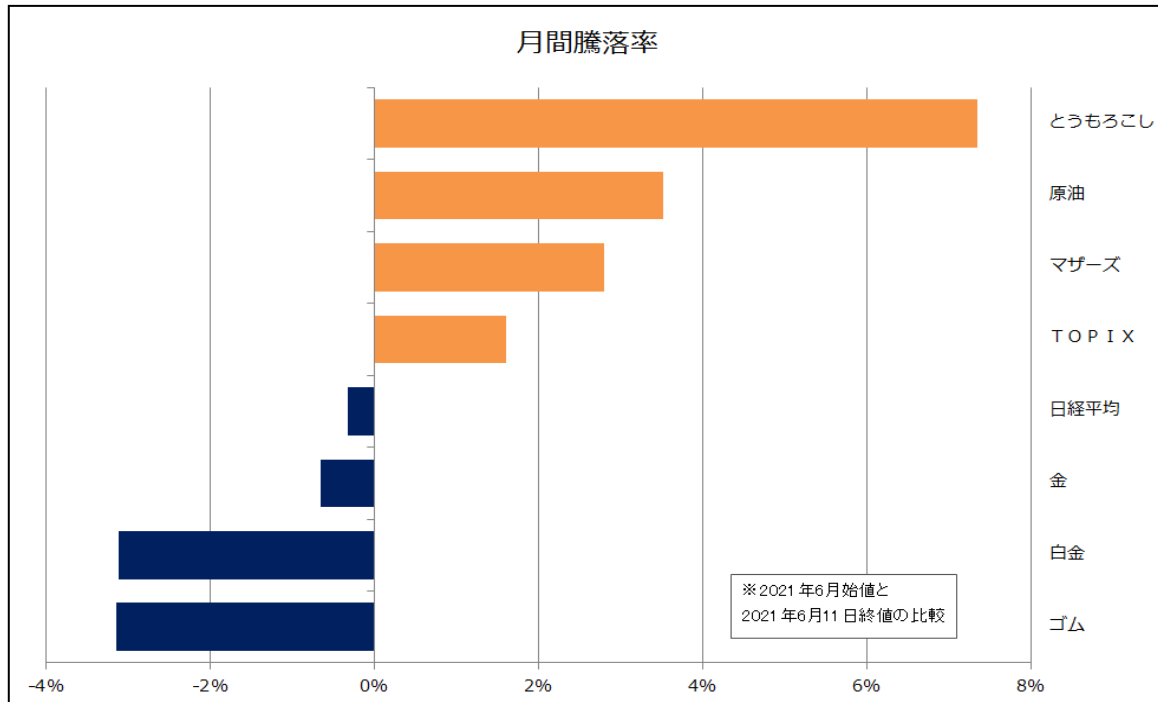
Weekly-Report

C X 週間展望 (6月14日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】



【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。